

新年のご挨拶 外科主任部長 高島郁博



当院外科は以前より広島大学腫瘍外科（旧原医研外科）出身の医師が一般外科、消化器外科を中心に診療を行ってきました。一時医師不足の影響もあり2人体制で診療を行っていましたが、4年前に広島大学腫瘍外科元講師、臨床教授の澤村医師が着任し3人体制で診療を行っています。以降、乳腺、痔の専門外来も開始、肝臓がんの手術も増加しています。医師はすべて経験25年以上で、市中の第一線病院と遜色ない外科治療を提供していると自負しています。当院内科で診断がついても、遠くの病院での手術を希望される患者様はまだまだいらっしゃるようですが、特別な場合を除いて遠方まで行かれなくても大丈夫です。がんが万一再発した場合の化学療法、緩和医療も可能で消化器疾患に関しては診断から治療

まで一続きで行えます。また大病院のように手術が2-3か月も先になることもなく、当院では比較的早く手術を受けられるのも大きなメリットです。結局、当院で手術をうけてよかったとお声も頂いています。当科は地域の皆様の健康と暮らしを支えるために治療を行っています。是非ともご利用ください。



県立安芸津病院

新年のご挨拶

新年のご挨拶 内科主任部長 三浦敏夫



明けましておめでとうございます。当院内科につきご案内いたします。医師6人で診療を行っています。6人全員が消化器病を専門としています。早期胃癌に対する内視鏡的治療、大腸ポリープの切除、総胆管結石症の内視鏡による碎石術や閉塞性黄疸に対するドレナージ術、潰瘍性大腸炎やクローン病に対する顆粒球除去療法、肝癌のラジオ波焼灼療法。B型・C型慢性肝疾患に対する抗ウイルス療法など、消化器疾患全般にわたり専門的内科治療を行っています。同時に、糖尿病、高血圧、高脂血症、呼吸器病などの、消化器以外の全内科領域の疾患に対し、総合内科医として診療に従事しています。また、病院スタッフの協力により、糖尿病教室、禁煙外来、検診を行い、地域の健康増進に役立ちたいと考えて

います。糖尿病や高血圧を診療中、早期胃癌や大腸癌を発見することも多くあります。糖尿病の増悪の原因が膵臓癌の発症であったこともあります。萎縮性胃炎に対して、胃内で増殖する菌であるヘリコバクター・ピロリの除菌を積極的に行っています。血液疾患である特発性血小板減少性紫斑病は除菌により改善することがわかっています。消化器病以外の疾患と消化器疾患との関連を理解した上で、総合診療を行うことは意義あることだと考えます。専門領域である消化器病以外の疾患に対し、消化器疾患専門医として総合診療に当たることの利点があり、またこれが当院内科の特徴であり、日々の診療で生かすべきことだと考えています。今年もよろしくお願いいたします。

病院理念

私たちは地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします

監修 広報・患者サービス向上委員会

発行 県立安芸津病院

広島県東広島市安芸津町三津 4388

Tel 0846-45-0055

冬場の感染症対策

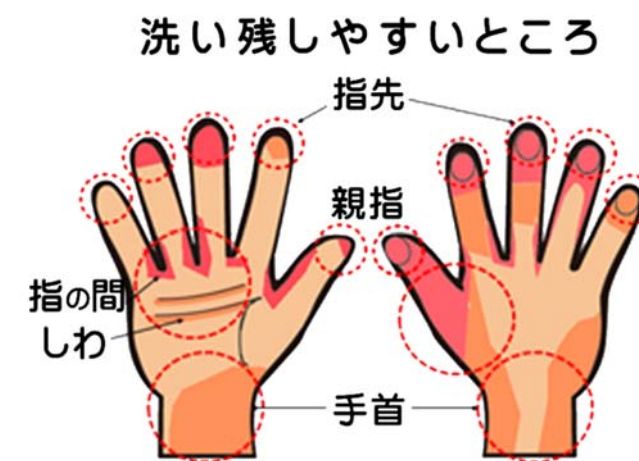
インフルエンザとノロウイルスが流行しています。

昨年のインフルエンザの流行は、1月の第4週をピークに、23週間続きました。

また、今シーズンのノロウイルスは変異した遺伝子型（GII.17）が大流行する恐れもあり注意が必要です。

インフルエンザもノロウイルスも、症状が出るまでの期間（潜伏期間）は1~2日で、潜伏期間も感染力があります。インフルエンザは発症後5~7日間、ノロウイルスは数週間ウイルスを排出します。

からだを感染から守るために一番大切なことは、「せっけんを使った手洗い」です。手のしわには約3000個のウイルスがついているそうです。日頃から帰宅時やトイレ後、調理前後、食事前など、「こまめ」に「ていねい」に手を洗いましょう。アルコール手指消毒剤はインフルエンザ予防に効果があります。また、咳やくしゃみが出る時にはマスクを着用し、感染症の流行を地域全体で防止していきましょう。



みんなで守ろう!

「咳エチケット」

インフルエンザやノロウイルスの感染力は非常に強く、少量のウイルスでも体の中に入ると増殖します。人から人へ伝播するため、とくに高齢者や乳幼児は注意が必要です。

次のポイントに注意して、冬の感染症を予防しましょう。

インフルエンザを予防しましょう!

感染経路：咳などのしぶきが、目、鼻、口に入ったり、手から口に入って感染します。

感染対策の基本は「手洗い」と「咳エチケット」です。

1. 帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに手を洗う（アルコール消毒が効果的）
2. 咳エチケットを守る（咳やくしゃみがある人はマスクを着用する）
3. なるべく人が多い場所に行かないようにする（必要時マスクを着用する）

ノロウイルスを予防しましょう!

感染経路：食べ物や手を介して口から体内に入り感染します。また、嘔吐物が乾燥すると空中を漂い、吸い込む可能性があります。

感染対策の基本は「手洗い」と「汚物の処理」です。

1. トイレの後、帰宅時や調理の前後、食事前など、ていねいに石けんで手を洗う
2. 牡蠣などの2枚貝は、十分加熱したものを食べる
3. 下痢やおう吐などの症状がある人と同じタオルを使わない
4. 便やおう吐物を処理するときは、使い捨て手袋・マスク・エプロンを着用し、0.1%次亜塩素酸ナトリウム希釈液（ハイターなど）で拭き、ビニール袋に入れ閉じて捨てる

- マスクを着用して周りの人にうつさない
- 咳・くしゃみをする時は人に顔を向けない
- 使ったティッシュはすぐゴミ箱に捨てる

